

二〇二五年度入学試験問題

国語 (六〇分)

注意事項

- 一、試験開始の合図があるまで、問題冊子は開かないでください。
- 二、この問題冊子は28ページあります。試験中、ページの脱脱落等に気づいた場合は、手を挙げて監督者に知らせてください。
解答用紙(マークシート)の汚れなどに気づいた場合も、同様に知らせてください。
- 三、解答用紙(マークシート)は折り曲げたり、汚したりしないでください。
- 四、解答は、すべて解答用紙(マークシート)に記入し、解答用紙(マークシート)の枠外には、なにも書かないでください。
- 五、解答番号は、1～44まであります。
解答用紙(マークシート)には、問題番号が1～50、選択肢が①～⑩まで印刷されていますが、解答にあたっては、各設問に指示された選択肢の数の中から選んで解答してください。
- 六、マークは必ずHBの黒鉛筆を使用し、訂正する場合は、完全に消してからマークしてください。
- 七、監督者の指示に従って、解答用紙(マークシート)に解答する科目・受験番号をマークするとともに、受験番号および氏名を記入してください。
- 八、解答する科目、受験番号、解答が正しくマークされていない場合は、採点できないことがあります。
- 九、試験終了後、問題冊子は持ち帰ってください。

大問1につきましては、著作権の都合により掲載しておりません。
ご不便をおかけしますことお詫び申し上げます。

大問1につきましては、著作権の都合により掲載しておりません。
ご不便をおかけしますことお詫び申し上げます。

大問1につきましては、著作権の都合により掲載しておりません。
ご不便をおかけしますことお詫び申し上げます。

(注) 1 エッチング……銅版画で、ろう引きの銅板に鉄筆などでかいた線画を酸で腐蝕させて原版を作る技法。また、その版で印刷した絵画。

2 綴方……旧制小学校の教科の一つ。文章の作り方。現在の作文にあたる。

3 シノニム……synonym。同義語、同意語。

4 フェティッシュ……特定の人造物や自然物を超自然的な力を持つものとして崇拜する傾向のこと。

問一 傍線部 a・d・f・g・i と同じ漢字を含むものはどれか。次の 1～4 のうちから最も適当なものをそれぞれ一つずつ選びマ

クしなさい。解答番号は 。

a 「タイセキ」

- 1 叔母の家庭菜園では、自家製のタイヒが使用されている。
- 2 先日の事故は、車体がタイハするほどの惨事だったらしい。
- 3 彼は、何があってもタイゼンと構えているように見える。
- 4 つい、借りたものを返し忘れてエンタイ料金を請求されてしまった。

d 「ナイホウ」

- 1 日本国ケンポウを学ぶ。
- 2 医者が薬をシヨホウする。
- 3 故郷からデンポウを受け取る。
- 4 ケガをした足にホウタイを巻く。

f 「シヨツカク」

- 1 自分の青春時代を振り返るとカクセイの感がある。
- 2 コウカクを上げて笑顔をつくる。
- 3 その患者は、昏睡状態からカクセイした。
- 4 サイボウカクを顕微鏡で観察した。

g「シヨウオウ」

- 1 卷末の参考文献一覧をサンシヨウする。
- 2 総会を催すため会員にシヨウシユウをかけた。
- 3 このパソコンは大学スイシヨウのものである。
- 4 親にカンシヨウされ、反抗心が芽生えた。

i「クワダて」

- 1 久々の同窓会での話題はタキにわたった。
- 2 旅行の前にその土地のキコウ文を読む。
- 3 子どもから大人まで楽しめるキカクを提案する。
- 4 神社で家族の健康をキガンする。

問二

空欄 A・C・D・F にあてはまる語句の組み合わせはどれか。次の1～4のうちから最も適

当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は 6。

- | | | | | | | | | |
|---|---|------|---|-----|---|------|---|------|
| 1 | A | だから | C | ただ | D | ただし | F | つまり |
| 2 | A | しかし | C | つまり | D | あるいは | F | ところが |
| 3 | A | そこで | C | しかし | D | 一方 | F | しかも |
| 4 | A | あるいは | C | しかし | D | 一方 | F | だから |

問三

傍線部b「そのような「私」とあるが、どのような「私」か。次の1～4のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は 7。

- 1 自身を表白する際に見出される、再び内面に取り込まれることのない言葉に表れる「私」。
- 2 小説という客観的芸術ジャンルでは表現しきれないものを感じてきはじめてこのごろの「私」。
- 3 自己表白に適したジャンルを模索し、告白と批評の中間形態を探りあてたころの「私」。
- 4 自身から発せられた言葉に対し齟齬を感じ、言葉ではなく肉体に重きをおきはじめて「私」。

問四 空欄 B・E にあてはまる四字熟語はなにか。次の1～8のうちから最も適当なものをそれぞれ一つずつ選び

マークしなさい。解答番号は 8 9。

- | | | | |
|--------|--------|--------|--------|
| 1 無為自然 | 2 日進月歩 | 3 一朝一夕 | 4 二東三文 |
| 5 二律背反 | 6 空理空論 | 7 格物致知 | 8 換骨奪胎 |

問五 傍線部c「言葉による芸術」とあるが、その「理想」とはどのようなことか。次の1～4のうちから最も適当なものを一つ選びマ

クしなさい。解答番号は 10。

- 1 言葉は自身に還流されないことから、肉体を鍛えることで生み出された言葉のみによって作品を紡ぎ出すこと。
- 2 言葉による観念化がなされないような現実を探求し、その現実を模倣した作品を生み出すこと。
- 3 言葉が現実の抽象化により腐蝕されることをも想定した、細やかに計算された作品を紡ぎ出すこと。
- 4 言葉が現実を腐蝕する作用を逆手にとり、それを利用して新たな作品を生み出すこと。

問六 傍線部e「私の場合」とあるが、それはどのようなことか。次の1～4のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解

答番号は 11。

- 1 自身の肉体を観念的なものとしてとらえてきたこと。
- 2 現実に存在する肉体の言葉のみを探し続けてきたこと。
- 3 肉体の記憶よりもはるか前に言葉を所有していたこと。
- 4 言葉の腐蝕作用にのみ、肉体の現実の意味を見出したこと。

問七 傍線部h「或る美しい誤解」とあるが、どのようなことか。次の1～4のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解

答番号は 。

1 「私」の観念のなかにおける男性の肉体は、あたかも「存在」を拒否するような存在形態を有していたということ。

2 「私」の観念のなかにおける男性の肉体の存在様式とは、「存在」そのものを具現化する類のものであったということ。

3 「私」の観念のなかにおける男性の肉体は、すべてが造形美と無言という特徴を兼ね備えているということ。

4 「私」の観念のなかにおける男性の肉体は、言葉の力がまったく及ばない世界に位置し、「存在」という概念を超越したものであったということ。

問八 空欄 ・ にあてはまる語句はなにか。次の1～8のうちから最も適当なものをそれぞれ一つずつ選びマーク

しなさい。解答番号は 。

。

1 芸術 2 肉体 3 造型 4 言葉

5 精神 6 模倣 7 現実 8 現在

次ページ以降にも問題があります。

問題二 次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

たとえば核家族が住まうための家を建てることに、二〇世紀の人々は懸命になった。二〇世紀の経済を下支えしたのは、「持ち家」への願望である。従来の地縁、血縁が崩壊し、近代家族という孤立した単位が、大きな海をヒヨウリュウしはじめたのが二〇世紀であった。近代家族という不確かで不安定な存在に対して、何らかの確固たる形を与えるために、彼らは住宅ローンでタガクの借り入れをしてまで、家を建て、家族を「固定」しようとした。あるいはコンクリート製のマンションというかたい器のなかに収容することによって、存在の不安定を「固定」しようとした。地縁、血縁が崩壊したことで不安定になってしまった自分を、コンクリートというがちがちのもので再びかためたいと願ったのである。

A、国家も、自治体も、あらゆる共同体が、コンクリートによる固定化で明確な「形」を獲得することによって、その存在の不安定を、解消しようとした。解消したつもりになるうとした。「ハコモノ」とは、そのようにして作られた、かたい建築の別名である。そういう人々の欲求にコンクリートは、最適の素材であるかに見えたのである。

しかし実際には、不安定なものほど、うわべの固定化によっては救われない。不安定なものもつとも必要としているのは柔軟性のあるはずである。固定化は不安定なものに不自然な足枷をはめるだけである。あるいは、コンクリートによる固定化は、もはや誰もが必要としない無用の存在としての共同体に対する、さらなる不必要な出費であった。コンクリートとは消えゆく不安定なもの達の、断末魔の叫び声である。(中略)

しかも、さらに悪いことに、この「強い」はずのコンクリートは、B、きわめてもろい。強いはずのコンクリートは、Cであるかを感じられても、数十年後には、最も処理のしにくい、頑強な産業廃棄物と化す。その劣化の度合いが表面からは見えにくいところが、さらに問題である。内部の鉄筋が腐食していても、あるいはコンクリート自体の強度が失われていても、表面からはうかがい知れない。木にしる紙にしる、時間がたてば傷む。しかし傷みが、はつきりと目に見える。だからその部分を取りかえることで、建築を長持ちさせることができる。木造の時間は、そのようにしてD的に、持続させていくことが可能である。ちよつとしたE力と傷んだ部分だけをこまめに取りかえるまめささえあれば、木造の時間はしぶとく、終わりなく流れてくれる。逆にコンクリートの不気味さは、その中身が見えないことである。見えないがゆえに、人々はそこに実際以上の圧倒的強度を仮想し、不安定を固定化するF的な力を期待する。

中身が見えないことに、コンクリートの本質があったのである。それゆえ、その上に化粧の上塗りが平然と行われる。そもそも中身

が見えていないのだから、その上に何かを重ねて、さらに不透明にしたとしても、その不透明な本質に変化はない。感覚はマヒし、上塗りには日常化する。

G、透明なガラスの上に化粧を塗るのは、ためられる。それが人間の心理である。日本の伝統的木造建築は、そのような種類の透明な建築であった。建築を支える構造体(柱)は、あくまで露出される。最後の最後まで露出され、露出されたままの裸の姿が、最終の仕上げとされる。隠蔽することは、罪悪と見なされる。

それゆえ、コンクリート建築で、必要な鉄筋を入れない偽装が行われたとしても、少しも不思議ではない。偽装とはコンクリートの不透明な本質の帰結である。二〇世紀の日本では、閉じた社会に固有の、カンリョウ^gを頂点とする息苦しい規律が、この種の不正をかわらうじてヨクシ^hしていた。しかし、社会の脱領域化が進んで、閉じた社会の規律が緩んでいけば、まっさきに、コンクリートという不可視な存在の奥の暗黒が狙われる。表面からは何も見えないから、そこで何が起こつても不思議はない。偽装者がコンクリートの暗黒をターゲットとしたのは、ある意味で必然であった。

いわば、コンクリートは、表象と存在の分裂を許容するのである。お化粧次第で、その中身とは関係なく、あらゆるものを表象することが可能だからである。石を貼ることで、権力と財力を表象することもできるし、アルミやガラスを貼って、テクノロジーや軽やかな未来を表象することも可能である。木材や珪藻土^{けいそうど}を貼って、「自然」を表象することすら、充分可能である。それゆえ表象が重視され、表象と存在との分裂が進行した二〇世紀という時代に最も適した素材が、コンクリートであった。(中略)

H、ある人は、コンクリートも自然素材であるという。主要な材料は砂、砂利、鉄、セメントであり、セメントも石灰石が主原料であるから、それらの自然素材を組み合わせて作ったコンクリートも自然素材だというロジックである。自然素材であるか否かということが問題なのではない。自然と人工との境界は実に曖昧である。プラスチックなどの石油製品にしたところで、もともとはある種の生物が姿を変えた石油という地中に存在する物質が原料であるし、加工の有無を問うて自然と人工との線を引こうとしても、今や人間の手が加わっていない素材は、ほとんど存在しない。

自然素材か否かの境界は極めて曖昧である。そこに線を引く行為に安住してはいけない。線引きからは何も生まれない。線引きは何も正当化しない。われわれは、線引きの先に行かなくてはいけない。自然な建築とは、自然素材で作られた建築のことではない。当然のこと、コンクリートの上に、自然素材を貼り付けただけの建築のことではない。

あるものが、それが存在する場所と幸福な関係を結んでいる時に、われわれは、そのものを自然であると感ずる。自然とは関係性である。自然な建築とは、場所と幸福な関係を結んだ建築のことである。場所と建築との幸福な結婚が、自然な建築を生む。

では幸福な関係とは何か。場所の景観となじむことが、幸福な関係であると定義する人もいる。しかし、この定義は、建築を表象として捉える建築観に、依然としてとらわれている。場所を表象として捉える時、場所は、景観という名で呼ばれる。表象としての建築と、景観という表象を調和させようという考えは、一言でいえば他人事として建築や景観を評論するだけの、傍観者の議論である。表象として建築を捉えようとした時、われわれは場所から離れ、視覚と言語にとらわれ、場所という具体的でリアルな存在から浮遊していく。コンクリートの上に、仕上げを貼り付けるという方法で表象を操作し、「景観に調和した建築」をいくらでも作ることができ。表象の操作の不毛に気がついた時、僕は景観論自体が不十分であることを知った。

場所に根を生やし、場所と接続されるためには、建築を表象としてではなく、存在として、捉え直さなければならない。単純化して言えば、あらゆる物は作られ(生産)、そして受容(消費)される。表象とはある物がどう見えるかであり、その意味で受容のされ方であり、受容と消費とは人間にとって同質の活動である。一方、存在とは、生産という行為の結果であり、存在と生産とは不可分で一体である。どう見えるかではなく、どう作るかを考えた時、はじめて幸福とは何かがわかってくる。幸福な夫婦とは、見かけ(表象)がお似合いな夫婦ではなく、何かを共に作りだせる(生産)夫婦のことである。(中略)

二〇世紀には存在と表象とが分裂し、表象をめぐるテクノロジーがヒダイした結果、存在(生産)は極端に軽視された。どうあるか、どう作られているかではなく、どう見えるかのみが目された。二〇世紀は広告代理店の世紀であったと要約した人がいるが、表象をめぐるテクノロジーを競いあう時代の主役こそ、他ならぬ広告代理店であった。表象の操作を繰り返せば、広告だけは無限に作り出すことができ、それなりの感動も驚きも作り続けることはできる。しかし、それは人間の本当の豊かさとは関係ない。

広告代理店にとつての豊かさではなく、人間にとつての豊かさを探りたければ、建築をどう生産するかに対して、われわれは再び着目しなければならない。その大地を、その場所を材料として、その場所に適した方法に基づいて建築は生産されなければならない。生産は、場所と表象とを縦に貫く。あたりまえの話だが、場所とは単なる自然景観ではない。場所とは様々な素材であり、素材を中心にして展開される生活そのものである。生産という行為を通じて、素材と生活と表象とが、一つに串刺しにされるのである。生産とは、そのような垂直性を有する。その結果として、自然な建築が生まれる。場所に根をはった、自然な建築ができあがる。かつてフランク・ロイド・ライトはラジカルな建築とは、実は自然に根をはった建築なのだと言いつつ放った。ラジカルと根つことという言葉が同じ語源をもつことを忘れてはならないと彼は語った。ウイスコンシン(注3)の田舎育ちという自分の根つこが、自分のラジカリズム(注4)の原点であると宣言したのである。

その意味で、日本の大工は驚くほどラジカルである。しばしば、家を建てるならその場所をとれた木材を使うのがよいと語り伝えて

きた。機能的にも、見かけも一番しっくりくると伝えた。それを一種の職人の芸談として、神秘化してはいけない。場所に根の生えた生産行為こそが、存在と表象とをひとつにつなぎ直すということを、彼らは直感的に把握していたのである。

(隈研吾『自然な建築』による)

(注) 1 フランク・ロイド・ライト……アメリカの近代建築家(一八六七～一九五九)。日本の旧帝国ホテルを設計した。

2 ラジカル……急進的な、という意味。

3 ウィスコンシン……アメリカ合衆国中西部の北部に位置する州。

4 ラジカリズム……急進主義。

問一 傍線部 a「二〇世紀」とあるが、この時代(一九〇一～二〇〇〇)の日本とむすびつかないものはどれか。次の1～4のうちから最も

も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は 15。

- 1 関東大震災が起こった。
- 2 日清戦争が起こった。
- 3 川端康成が日本人初のノーベル文学賞を受賞した。
- 4 日本ではじめての東京オリンピックが開催された。

問二 傍線部 b・c・g・h・k と同じ漢字を含むものはどれか。次の 1～4 のうちから最も適当なものをそれぞれ一つずつ選びマ

クしなさい。解答番号は

16

)

20

 。

b「ヒヨウリュウ」

- 1 あの病院はヒヨウバンが良い。
- 2 汚れたシャツをヒヨウハクする。
- 3 温暖化でヒヨウザンが溶ける。
- 4 画面にヒヨウジする。

c「タガク」

- 1 絵はがきをガクブチに入れる。
- 2 アメリカでガクイを取った。
- 3 娘のオンガクカイに行く。
- 4 高校でサンガクブに入っていた。

g「カンリヨウ」

- 1 今年は、サンマがフリヨウだ。
- 2 ヨウリヨウが悪い人とは、仕事をしたくない。
- 3 妹は、大学サッカー部のリヨウボだ。
- 4 転職するドウリヨウへのメッセージを書く。

h「ヨクシ」

- 1 言論の自由がヨクアツされる。
- 2 ヨクジツの新幹線で大阪に帰るつもりだ。
- 3 ヨクシツのリフォームをする。
- 4 鳥はリヨウヨクを広げた。

k「ヒダイ」

- 1 ヒヒヨウブンを書く宿題が出た。
- 2 人体のヒミツを探る。
- 3 運動不足はヒマンにつながる。
- 4 そんなにヒクツになることはない。

問三 空欄 A · B · G · H

当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は 21。

- | | | | | | | | | |
|---|---|-----|---|-------|---|-----|---|---------|
| 1 | A | 同様に | B | いわば | G | だから | H | 実のところ |
| 2 | A | さて | B | しかも | G | では | H | したがって |
| 3 | A | 同様に | B | 実のところ | G | 逆に | H | にもかかわらず |
| 4 | A | では | B | つまり | G | さらに | H | あるいは |

問四 傍線部 d「コンクリートは、最適の素材であるかに見えた」のはなぜか。次の1～4のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は 22。

- 1 コンクリートを使った「ハコモノ」というかたい建築は、不安定になった二〇世紀の人々に、従来の地縁、血縁を思い出させ、人間のあるべき生き方を示すと考えたから。
- 2 核家族が住むための家をどうしても建てることに必死になった二〇世紀の人々は、単独で弱い家を建てるよりも、かたいコンクリート製のマンションの方で共同生活をした方が有利だと考えたから。
- 3 ローンで借り入れをして建てた家で、家族を「固定」するには、コンクリートというかたい建材で建築し、どのような災害でも壊れない家を作ることが必要だと二〇世紀の人々が考えたから。
- 4 地域の相互関係や、血のつながりによる関係が崩れてしまったことで不安定になった二〇世紀の人々は、とにかくかたいもので自分たちを固定することで不安定を解消できると考えたから。

問五 傍線部 e「足枷」の意味はどれか。次の 1～4 のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は 23。

- 1 着実に進むためのもの。
- 2 物事を始める前提となるもの。
- 3 自由を束縛して行動を妨げるもの。
- 4 重要な局面で頼りにならないもの。

問六 傍線部 f「断末魔の叫び声」とはどのような声か。次の 1～4 のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は

24。

- 1 もうすぐ死ぬ者が来世の誕生を求めて叫ぶ声。
- 2 自分の存在を主張する声。
- 3 世界の最期を告げる悪魔の声。
- 4 息絶える時の苦しさに我慢できず出す声。

問七 空欄 C F にあてはまる語句の組み合わせはどれか。次の 1～4 のうちから最も適当なものを一つ選びマーク

しなさい。解答番号は 25。

- | | | | | | | | | |
|---|---|----|---|----|---|----|---|----|
| 1 | C | 永遠 | D | 連続 | E | 観察 | F | 超越 |
| 2 | C | 巨大 | D | 永遠 | E | 本質 | F | 観察 |
| 3 | C | 固定 | D | 連続 | E | 本質 | F | 超越 |
| 4 | C | 永遠 | D | 超越 | E | 巨大 | F | 連続 |

問八 傍線部「コンクリートは、表象と存在の分裂を許容する」とあるが、どういうことか。次の1～4のうちから最も適当なものを

一つ選びマークしなさい。解答番号は 26。

1 コンクリートは表面を様々に化粧することが可能なので、かたいコンクリートの上に石を貼ることにより、さらに強度の高い建築を作れるということ。

2 コンクリートに木材や珪藻土を貼ることにより、実際には自然素材でなくても、「自然」を取り入れた建築であるかのように見せかけることも可能だということ。

3 偽装者がコンクリートの暗黒をターゲットとしたのは、コンクリートの表面からは内部が何も見えないためであり、これを利用した犯罪が起こったのは仕方がないと許容されるということ。

4 プラスチックなどの石油製品は明らかに姿を変えられるが、コンクリートの場合は、表面だけしか変えられないので、常にコンクリートそのものの存在が認知されるということ。

問九 傍線部「表象の操作の不毛に気がついた」とあるが、なぜ「不毛」なのか。次の1～4のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は 27。

1 景観論は十分に議論されてきており、いまさら、表象の操作について議論するのは意味のないことだから。

2 場所の景観となじむことで幸福な関係がつけられるので、表象の操作をすることは必要がないと思われるから。

3 自然な建築とは、自然素材で作られた建築のことを指し、そのような建築こそが景観と真に調和できると考えられるから。

4 場所に根づいた自然な建築とは、表象として捉えるのではなく、存在として捉え直すことにより生まれるものだから。

問一〇 傍線部「神秘化してはいけない」とあるが、筆者がこのように考えるのはなぜか。次の1～4のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は 28。

1 日本の大工は、場所に根をはった建築が最も良い建築だということを知っており、その感覚を現代建築でももつべきだから。
2 日本の大工が、「ラジカル」と「根っこ」という言葉が同じ語源をもつということを、職人の芸談の中で語り継いできたことを忘れるべきではないから。

3 フランク・ロイド・ライトや日本の大工と同じように、田舎暮らしを重視した建築を目指すのが、これからの建築だから。

4 日本の大工が直感的に知っている方法を使えば、現代のテクノロジーをより精密に高度に成長させることができるから。

問一一 本文で述べられている内容と異なるものはどれか。次の1～4のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は 29。

1 建築はその場所のものを材料として、その場所に適した方法に基づいて生産されるべきである。

2 強いと感じられるコンクリートは、実際のところは非常にもろく、数十年後には処理が難しい産業廃棄物になる。

3 二〇世紀が広告代理店の世紀であったと言われるのは、表象をめぐるテクノロジーを競いあいながら人間の本当の豊かさを追求したためである。

4 自然素材か否かの境界はきわめて曖昧なため、線引きすることをいくら考えても、明確な結論にはたどり着けない。

次ページ以降にも問題があります。

問題三 次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

明治生まれの人々までは「型」というものがずいぶん重視されていました。人間の内面がどうであるかを問うより先に、まずきつく外側から締めつけられた、「守らなければならない型」というものがある、というふうに考えられていたのです。

「武士は食わねど高楊枝」というのは、空腹という「A」よりも、背筋を伸ばし^a 粋^aが^aる「B」を優先させると言う意味です。目の前にお札が落ちていても、人を掻き分けて拾うようなふるまいは「さもしい」と感じることで

す。それは美意識とかイデオロギーというような「C」的なものではなく、むしろ「D」的なものと言うべきでしょう。いくら「あ、お金だ。拾おう」と思っても、体がいうことをきかない。たぶんそういう「型」を昔の人たちは、「E」的に刷り込まれるという育てられ方をしてきたのではないのでしょうか。

よく言われることですが、日本人にはキリスト教の神さまのような、全知全能の神という概念はありません。人が見ていないところでも、神さまが見ているから恥ずかしいことはできない、というのがキリスト教文化です。

『菊と刀』^{注2}で、ルース・ベネディクトはこれを「罪の意識」と呼びました。それに対して、日本人は他人の目が気になるので、恥ずかしいことができない。これは「恥の文化」である、と書きました。

でも、このとき、日本人を恥じ入らせる「他人」は、別にそこに具体的にいる人間のことでないのです。

「人さまにみせられないざまだ」とか「世間に顔向けできない」というような場合の「人」や「世間」は具体的な人間ではありません。それは一種の抽象概念です。そのような抽象概念が個人の身体の中に刷り込まれてしまうと、一人でいるときも「はしたないこと」や「さもしいこと」をすることができない。しようと思っても身体がこわばって身動きならない、ということが起きます。神さまが見ているのではないのです。自分自身の中にいる「人」が見ているのです。

「恥の文化」というのは、そのようなかたちで社会規範が内面化、あるいは身体化したものだとはくは思います。その「身体化した社会規範」のことをほくは「型」というふうに言い換えているわけです。

「型に縛られていること」、それが日本人の倫理性の特徴的なあり方です。

本質的に「無信仰」である日本人には、その行動や胸中を全部見通しているような「全能の神」というものはうまく想像できません。日本人の倫理性を担保しているのは、神ではなく、むしろ個人のうち^aに内面化し、身体化した社会規範です。

日本はよく言われるように、非常に「他者志向」の強い社会です。「他者志向」が強い人というのは、いつもまわりの人の様子を窺^{うかが}っ

て、そのわずかな変化にこまめに反応しながら、自分のスタンスを決める人のことです。そういう相互参照的なしかたで生きていると、当然ながら、Aさんは隣のBさんの目を気にして、Bさんの生き方を参照しながら、自分のスタンスを決める。一方、Bさんは隣のAさんの生き方を参照しながら、自分のスタンスを決める。そうやって、相互参照、相互規定しているうちに、AさんとBさんの顔付きはどんどん似てきてしまうのですね。

そういうやり方のせいで日本社会がここまでずいぶん均質的なものになってしまったわけですから、問題といえれば問題なのですが、とりあえず「神なき国」において、個人の倫理性を保証するものといったら、「人」や「世間」の視線というものを想像して（誰も見ていないのに）、その視線に射抜かれてしまって、身動きできなくなってしまうという制度しかなかったのですから、しかたがありません。

「はしたない」とか「さもしい」とか「下品」とかいうことばで言い表されるような倫理的規範は、よく考えれば分かりますが、絶対的な基準があつて決められたものではありません。「絶対的に、はしたない行為」とか、「いついかなる状況でも下品とされる行為」というようなものは存在しません。「はしたない」とか「さもしい」というのはローカル・ルールです。そのような判断基準を共有する小さな集団の中でのみ規範を持つルールにすぎません。それは「人」や「世間」のままざしを内面化した人間だけにダトウする種類の倫理性です。でも、とりあえず日本という国では、久しくそのようなローカル・ルールが人倫を支えてきたのです。それに代わるものを持たなかつたのです。そのような倫理性に育まれた世代の最良の人々は、人が見ているところでも、見ていないところでも、つねに居すまいを正して、一本芯が通つたような生き方をしていたのだと思います。

この（神ならぬ）F という日本人の倫理性の特徴的なあり方を端的に表象するのが「紋付き」だ（注4）と思います。紋付きというのは（ときどき時代劇マンガで間違つて描いてあることがありますが）、家紋が五つついています。胸に二つ、袖の後ろに二つ、大きな紋が背中一つ。

つまり家紋は三対二の比率で「後ろから見られるもの」なのです。家紋は、背中に背負う家格の象徴です。気安く触られたり泥をつけられてはいけない、非常にたいせつなものを背中の真ん中に背負っていたわけです。人間が身につけている一番たいせつなものは、「自分では見ることができず、他人から見られるだけの部位」に貼り付けられていたのです。

これは昔の武士の身体感覚を想像するときの一つの手がかりになると思います。武士が歩いているとき、その意識は「背中」にあつたということです。

(注5) 観世流シテ方の方に、「能楽師は背中をどういうふう意識していますか」という質問をしたことがあります。そのとき観世流の先代家元観世左近の背中が非常に美しかったというのを教えてもらいました。シテ方は、やや前傾するために、どうしても背中が丸くなりがちなのだけれど、観世左近はみごとにフラットな背中をしており、そのせいで紋付きの家紋がまったく歪むことがなかったというのです。これはおそらく式楽である能楽が江戸時代に武士的な「着付け」と深く親しんだことの結果だろうと思います。

紋付きを着用し、佩刀している場合でしたら、さらに左後方の空間に二尺何寸かの鞆が突き出しています。

御存じの通り、鞆を当てるのは不作法のキョクゲンです。自分の刀に鞆当てされた場合は、すれ違った瞬間に「無礼者」と言って切り捨てるのも「あり」、というほどの不作法なのですから、刀を差している人間は必死です。絶対に他人に触れられてはいけないものを、自分の目からは見えないところに数十センチも突き出しているわけです。昔の侍が背中にどれほど意識を置いていたのかは、このことを考えるとよく分かります。

そうやって昔の人は、視野に入っていない背面に対しても、絶えず意識を張り巡らしていました。

(注10) 「男が表に出ると、七人の敵がいる」ということばがありますね。最近あまり使われません(たぶん父権制的である、というので自主規制されているのでしょうか)。でも、このことわざは必ずしもそのような性差別的なイデオロギーのゲンメイではないだろうと思います。「七人の敵」とは、「七方向」のことだとよくは解釈しているからです。一步表に出たら、前だけを見ているのではなく、前後左右の八方を見よ、このことばはそう教えているのではないのでしょうか。

ほんやりしている人間は、自分の前の一方向しか見ません。そうではなくて、残る七方向に対しても、くまなくセンサーを働かせなさいということはこのことばは教えていると思うのです。あえて「敵」という強いことばを使って、センサーの感度を最大化することを求めているのだと思います。

自分の空間的な「位置どり」について、昔の人は今よりもずっと敏感だったし、それを感知するセンサーの感度を高めるために、いろいろな工夫をしていました。それというのも、身分や立場によって、服装も、ことばづかいも、身体の動かし方も、すべてが違っていたからです。立つとき、座るとき、歩くとき、おジギをするとき、武士と町人、男と女、大人と子どもでは「型」が違いました。化粧法一つとっても、結婚した後と前で変えていました(最近の時代劇では既婚女性の「お歯黒」を見る機会はもうありませんが)。そういう繊細な身体性の違いが「型」として規定されていたわけですね。

日本の倫理は「罪の文化」ではなく、「恥の文化」であるというベネディクトの説をぼくはなかなかみごとく分析だと思っています。神さまが心の中まで見ているのなら、心の中が正しければ、その行いや姿かたちが周囲からどう見えようと、それは副次的なことにすぎ

ません。しかし、「人」は心の中までは見てくれません。心の中が正しくても、行いや姿かたちにそれが外形化していなければ、その「正しさ」は社会的に承認されません。だから日本の「恥の文化」は同時に「型の文化」とならざるをえなかった、ぼくはそういうふうに考えています。

人間の「中身」はさておき、まず「型」が正しくできているかどうか、それをチェックするというのが「型の文化」的な発想法です。まず「型」を決める。そして、その外形的な「型」を身体に刷り込んでゆくうちに、「型」は身体の中に食い込むように内面化し、ついには誰も見えない場所でさえ、その「型」のせいで、人間は心の欲望のままにふるまうことができなくなる、というのが日本的な倫理教育だったのではないか、とぼくは考えています。

キリスト教的なアプローチとは正反対のプロセスなのですが、人間を社会化する目的が、「自分の利己的な欲望を制御して、社会規範を遵守して生きる人間」つまり「市民」を創出するということであるならば、どういうコースを選ぼうとカマわないと思います。静岡県から登っても、山梨県から登っても、富士山は富士山です。

「型」を学ぶというのは、身体をコントロールする術を学ぶということです。「型」を通じて、社会的な自分のポジション、つまり「分を知る」のです。「分を知る」というのは、(中略)「マッピングする」ということです。地図上の自分の位置を知ること、想像的に自分自身を含む風景を上空から見下ろす視点に立つということです。

子どもが、今自分は子どもだが、これから大人になるためにどうしたらいいんだろうと考えたときに、自分の行く方向を知るためには、どうしても、想像的にこの俯瞰的な視座に立たなければなりません。

「背中から見たら、自分はこういうふうに見えるだろうか」という意識の持ち方、そのための基礎的な訓練なのだと思います。

身体的センサーを活性化することによって、空間の中における自分の位置どりを常に意識するような文化、それが日本の伝統文化だろうとぼくは思います。

(内田樹『疲れすぎて眠れぬ夜のために』による)

(注)

1 イデオロギー……政治・道徳・宗教・哲学・芸術などにおける歴史的、社会的立場に制約された考え方。

2 『菊と刀』……一九四六年に出版された。アメリカの文化人類学者ルース・ベネディクト(一八八七～一九四八)による、日本の文化を説明した文化人類学の書物。

3 ローカル・ルール……ある特定の地方、場所、組織、団体、状況などでのみ適用されるルールのこと。

4 紋……代々その家で定め伝えられている家のしるし。

5 観世流シテ方……観世流とは能楽における能の流派の一つのこと。シテ方とは、シテ(能、狂言の役の名称で、一曲の主役)を主に演じる人たちのグループのこと。

6 観世左近……中世以来、観世流の当主が代々名乗った名のこと。

7 式楽……公的な儀式に用いられる音楽や舞踊のこと。江戸幕府は能を武家の式楽として定めた。

8 佩刀……刀を腰につけること。

9 二尺何寸かの鞘……尺、寸は長さの単位。一尺は約三〇・三センチメートル。一寸は約三・〇三センチメートル。鞘とは刀剣類の刀身を収める筒状の入れ物のこと。

10 父権制……主に男性が支配的で特権的な地位を占めるシステムのこと。

11 お歯黒……結婚している女性が歯を黒く染める化粧法のこと。

問一

空欄

A

く

E

しなさい。解答番号は 30。

にあてはまる語句の組み合わせはどれか。次の1～4のうちから最も適当なものを一つ選びマーク

- | | | | | | | | | | | |
|---|---|----|---|----|---|----|---|----|---|----|
| 1 | A | 内面 | B | 外面 | C | 身体 | D | 頭脳 | E | 身体 |
| 2 | A | 外面 | B | 内面 | C | 頭脳 | D | 頭脳 | E | 身体 |
| 3 | A | 外面 | B | 頭脳 | C | 身体 | D | 身体 | E | 頭脳 |
| 4 | A | 内面 | B | 外面 | C | 頭脳 | D | 身体 | E | 身体 |

問二 傍線部 a「粹がる」とはどのようなことか。次の 1～4 のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は 31。

- 1 特に容姿が優れていることを人に自慢すること。
- 2 義理や人情を重んじる行為を大切にすること。
- 3 洗練されていると思つて得意になること。
- 4 特別な存在であると信じて努力すること。

問三 傍線部 b「ルース・ベネディクト」の著書『菊と刀』は、第二次世界大戦後の一九四六年(昭和二十一年)にアメリカで発表されたものである。おおよそ同じ時代に、日本で発表された文学作品はどれか。次の 1～4 のうちから一つ選びマークしなさい。解答番号は 32。

- 1 芥川龍之介『羅生門』
- 2 太宰治『人間失格』
- 3 樋口一葉『たけくらべ』
- 4 石川啄木『一握の砂』

問四 傍線部 c「恥の文化」とはなにか。次の 1～4 のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は 33。

- 1 自分の中にある人、世間という抽象的なものが個人の中に刷り込まれて、一人でいる時も恥となるような行動をとることができるという形で社会の決まりを身体化した文化が「恥の文化」である。
- 2 明治に生まれた人々は小さな集団の中で生活していたために、その小さい集団だけに規範力を持つローカル・ルールを作り、それに絶対的な權威を持たせたのが「恥の文化」である。
- 3 個人の体験ではなく、長い日本の歴史の中で形成された社会規範が人々の拠り所となり、誰が見ても恥ずかしくないような行動をとるように刷り込まれたのが「恥の文化」である。
- 4 日本人は自分の行動の拠り所となる手本や基準を自分の心の中に置くことができなないので、具体的に恥ずかしかつた経験や事例を思い出しながら行動を決めていくのが「恥の文化」である。

問五 傍線部d「日本社会がここまでずいぶん均質的なものになってしまった」とあるが、それはなぜか。次の1～4のうちから最も

適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は 34。

1 「はしたない」、「さもしい」、「下品」などのことばで表せる倫理的規制が日本社会の中で育まれたことによって、個性を重視することよりも協調的で同質な社会が求められてきたから。

2 いつもまわりの人の様子を窺って、少しの変化にこまめに反応しながら、自分のスタンスを決めるといふ相互規定を行ううちに、いつのまにか他者と同じような行動をとるようになってしまったから。

3 日本は他者志向が強い国なので、ひとりの模範的な人物がやっていることをすべての人々が見習って真似まねをするうちに、多くの人の行動が類型化するようになってきたから。

4 いつもまわりの人の様子を窺って、行動しているうちに、日本という狭い集団の中で動かしがたい基準が生まれていき、人が認めない行動については身体が動かなくなってきたから。

問六 傍線部e「視線に射抜かれて」と同じ意味はどれか。次の1～4のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号

は 35。

1 疑いの目で何度も見られて

2 鋭い目つきで見据えられて

3 同情の目つきで見られて

4 軽蔑的な目で一瞥いちべつされて

問七

傍線部 f・h・i・j・l と同じ漢字を含むものはどれか。次の 1～4 のうちから最も適当なものをそれぞれ一つずつ選びマークしなさい。解答番号は 36 37 38 39 40。

f 「ダトウ」

- 1 交渉がダケツする。
- 2 子どもの時、毎日ダガシヤに行った。
- 3 ダラクした生活をやめたい。
- 4 前の車がダコウ運転をしている。

h 「キョクケン」

- 1 最近、祖父はケンキがない。
- 2 体力のケンカイだ。
- 3 朝起きると、ケンソウテキな風景が見られた。
- 4 客が来たので、ケンカンに行く。

i 「ゲンメイ」

- 1 注文が殺到して、うれしいヒメイをあげる。
- 2 スポーツ団体にカメイする。
- 3 営業先でメイシ交換をした。
- 4 「必要はハツメイの母」という言葉がある。

j 「おジギ」

- 1 来月、ジレイがでる。
- 2 夏休みは、各地のジインをまわりたい。
- 3 それがジジツだとしたら、大変なことになる。
- 4 A社のデザインがB社のものにコクジしている。

1 「カマわない」

- 1 彼女はあまりにもコウマンなので、嫌いだ。
- 2 「はい、ケッコウです。それでお願います。」と客に言われた。
- 3 週末の遠出先のコウホを挙げる。
- 4 この会社のコウソク時間は、8時間だ。

問八

傍線部g「居ずまいを正して」とあるが、どのようなことか。次の1～4のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。

解答番号は 41。

- 1 心の乱れを表に出さず正しい行動をとること。
- 2 座っている姿勢をきちんと整えること。
- 3 住んでいる場所を整えて清らかにすること。
- 4 動かず静かに過ごして心を休めること。

問九

空欄

F

にあてはまる文はどれか。次の1～4のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は

42。

- 1 「人」の視線をできるだけ避けることで、正当な自分を構築する
- 2 「人」の視線を意識しながらも、独自の考え方を貫きとおす
- 3 「人」の視線を過剰に意識することで、自分自身を律する
- 4 「人」の視線は気に留めないで、自分自身の存在意義を追求する

問一〇 傍線部k「恥の文化」は同時に「型の文化」とならざるをえなかった」とあるが、それはなぜか。次の1～4のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は 43。

1 「型の文化」が体の中に食い込むように内面化していくうちに、人間の「中身」が磨かれていって、正しいことをしなければ「恥」だと考えるようになったから。

2 「型」を通じて社会的なポジションを知ることが「型の文化」なので、それぞれの立場での「型」を徹底させる方法として、万人に共通する「恥」を知っている必要があるから。

3 たとえ心の中が正しいとしても他人は心の中まで見てくれないので、人を意識する「恥の文化」は、行動や姿かたちにおいて人に認められる「型」を持つ必要があったから。

4 人間の内面がどうであるかを問うよりも先に、外側から締めつけられた「守らなければならない型」があったため、「型の文化」を学ばないことは「恥」だと考えられていたから。

問一一 本文で述べられている内容と合うものはどれか。次の1～4のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は 44。

1 子どもに「型」を学ばせ、身体をコントロールする術を学ばせるということは、大人になるための美意識やイデオロギーを体得させ、社会的に高いポジションを得るための訓練である。

2 キリスト教的なアプローチと日本の倫理教育のアプローチとは正反対のプロセスであったため、そこで生まれた市民像や社会規範についての考え方においても様々な違いが見られた。

3 昔の人は今より、自分の空間的な「位置どり」を感知させるセンサーの感度を高める工夫をしていた結果、微細な身体性の違いが「型」として規定されることになった。

4 能楽が江戸時代に武士的な「着付け」と深く親しんだ様子が観世流シテ方の姿勢に現れているように、気安く触れられてはいけないものや大切なものは他人に見せなかった。